

文京区補助金等チェックシート（実績検証用）

所属 アカデミー推進部アカデミー推進課

問合せ先 03 - 5803 - 1307

6年度調査

1 補助金の名称等

補 助 金 の 名 称	石川啄木顕彰室運営費補助金									
根 拠 規 定 等	石川啄木顕彰室運営費補助要綱									
創 設 年 月	平成	27	年	4	月	経過年数 〔自動計算〕	9年	終了予定年月		
見 直 し 年 月	令和	3	年	7	月	経過年数 〔自動計算〕	3年			
見 直 し の 内 容	運営体制の変更に伴う補助対象者及び補助対象事業の規定の整備並びに補助対象経費の項目の追加									
予 算 科 目	款		項		目		大事業		中事業	
	3区民費		5アカデミー費		3アカデミー事業費		2石川啄木歌碑・顕彰室管理運営費		1石川啄木歌碑・顕彰室管理運営費	
補 助 金 の 種 別	☐ 奨励的補助 ☒ 施設運営補助 ☐ 扶助的補助 ☐ 投資的補助 ☐ 利子補給									

2 補助金の概要

補 助 目 的	文京区小石川五丁目短期入所生活介護施設内に設置した石川啄木顕彰室について、その運営に要する費用に係る補助金を交付することにより、文京区ゆかりの文人である石川啄木を顕彰し、区の観光振興に資する。					
補 助 事 業 等 の 内 容	石川啄木終焉の地の隣接地(小石川五丁目短期入所施設内)に設置した石川啄木顕彰室を管理運営し、写真やパネル、直筆原稿のレプリカ等の展示を行い、石川啄木を顕彰する。					
補 助 対 象 経 費 の 内 容	(1)顕彰室の運営に要する光熱水費(2)特別清掃及びマット等のクリーニングに要する費用(3)警備及び防犯に要する費用(4)次に掲げる設備等の点検及び修繕に要する費用(壁面等の内装・自動ドア・ショーケース、スポットライト等の展示に係る設備・電気空調設備)(5)展示内容の変更及び展示物の作成等に要する費用(6)感染症の拡大防止に要する費用(7)運営のための事務処理に要する費用(8)その他区長が必要があると認めた経費					
補 助 事 業 者 等	☐ 区民 ☐ 地域活動団体 ☐ NPO(特定非営利活動団体) ☒ 事業者 ☐ その他 〔特定の相手方に補助している場合は具体的に記入〕 令和3年6月まで医療法人社団珠泉会、令和3年7月から株式会社日本アメニティライフ協会					
補 助 金 の 算 出	☐ 定率 [補助率] ☐ 定額 [補助額] ☐ 補助単価 [補助単価 単位] ☒ その他 [その他の場合は具体的に記入] 予算の範囲を限度とし、補助対象経費の実支出額を交付 [定額又は補助単価の場合は金額設定の考え方を具体的に記入]					
公 募 の 状 況	非公募					
実 績 報 告 書 時 に お け る 使 途 の 確 認 方 法	☒ 領収書 ☐ 契約書 ☒ 決算書 ☐ 成果物 ☐ その他 []					
補 助 ・ 単 独 の 状 況	☒ 区単独 ☐ 補助(区上乘せ無し) ☐ 補助(区上乘せ有)	負担割合 上乗せの内容・理由	区	国	都	補助対象者

3 交付実績

(件、千円)

項目	3年度(決算)	4年度(決算)	5年度(決算)	6年度(予算)
交付(見込み)件数	1	1	1	1
決算(予算)額	504	521	545	802
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
一般財源	504	521	545	802
交付実績の特記事項				

4 補助金の交付の適否に関する基準 [○:適合、△:適合しているが課題あり、×:不適合、-:非該当]

項目	内 容	判定	判定の理由(△、×の場合のみ記載)
必要性 (公益性)	補助事業等が、社会情勢や区民ニーズに適合しているか	○	
	基本構想、総合戦略、個別計画等の区の政策に適合しているか	○	
	区と区民等の役割分担の中で、区が補助すべき事業であるか	○	
	実施しなかった場合に大きなマイナスの影響が生じるか	○	
公平性	補助要件に該当する補助事業者等であれば、誰でも補助金の申請をする機会が確保されているか	-	
	交付先は適正な手続きによって決定されているか	-	
効率性 (有効性)	補助金の交付以外の代替策はないか	○	
	補助金の交付による効果が認められるか	○	
	補助金額に見合う具体的効果が認められるか	○	
	事業実施の効果が広く区民に還元されているか	○	
適正性 (適格性) (妥当性) ※個人等の 補助金につ いては不要	法令等に抵触していないか	○	
	団体等の活動内容が補助目的と合致しているか	○	
	団体等の会計処理や補助金の使途が適正か	○	

5 効果、課題及び今後の方向性

効果	本区ゆかりの文人である石川啄木終焉の地と啄木に関する知識の普及啓発を図ることができた。
課題	来場者の状況は毎月200人前後となっているが、本区と啄木のつながりをより多くの方に知ってもらい、本区の観光振興に寄与するため、毎月の来場者数を増やしていく必要がある。
今後の方向性	本区ゆかりの文人の顕彰を通じて、地域の発展と活性化及び観光振興に更に寄与するよう、展示内容や周知方法の工夫等を行い、来場者数の増加を図っていく。